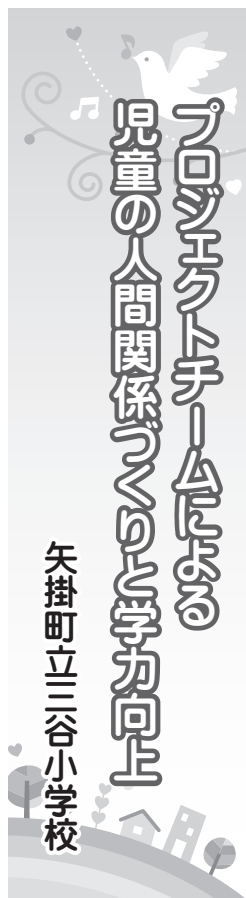


広げよう！優良実践の輪！

～ 令和元年度 優良実践校の取組 ～

取組 5



1 はじめに

本校は、全校児童73名の小規模校です。学区内の保育園から入学する児童の割合が高く、新たに人間関係を構築する必要がないため、コミュニケーション力が育ちにくいのが現状です。また、職員数が少なく、職務分担の個別化、協力体制の取りにくさも課題となっています。そこで、プロジェクトチームを組織し、本校の課題解決を図ることにしました。

2 取組の概要

プロジェクトを「知」・「徳」・「体」及び「地域連携」の4領域とし、全職員がそれぞれの領域に所属してチームを組みました。学力の向上と人間関係づくりの重点を置き、チームごとに作成した達成基準と具体的な実践計画をもとに、学校運

営協議会の助言をいただきながら、取組を進めました。

(1) 学力向上の取組

「知」領域のプロジェクトチームを中心に、学習規律と伝え合う力の2点に焦点を絞って取り組みました。



フリートークによる伝え合いの場

① 基本的な学習規律の定着
よりよい話し方や聞き方を具

体的に決め、各教室に掲示しました。また、発表は最後まで言い切るよう促し、聞き手にはハンドサインを使って自分の考えを示すことも指導していきました。

「体」領域のチームと連携し、姿勢体操や体幹トレーニングによる体作りを行い、学習中の姿勢を保つ力も育てました。

② 伝え合う力の育成

伝え合いの場を充実させるため、練習の場、少人数での意見交換の場、全校集会の場、保護者や地域の人に対する場、そして観光客等が集まる場と、さまざまな規模で場を設定して取り組みました。

(2) 人間関係づくりの取組

「徳」領域を担当するプロジェクトチームを中心に、異学年交流の場の設定と自力解決力の育成について取り組みました。

異学年交流では、縦割り班活動、兄弟学級、それ以外の学年など、ふれ合う相手を広げて活動を計画的に取り入れました。

自力解決力の育成については、子ども同士で話し合える場と時間を作り、教師がそばで見守り

ながら解決を促し、「自分たちで解決できた」という成功体験を積み重ねられるようにしました。



縦割り班でカルタ遊びを楽しむ様子

3 おわりに

プロジェクトチームを組織し、学校運営協議会と連携しながら取り組むことにより、課題の明確化と取組の具体化が図られ、全職員の共通理解のもと、確実に実践していくことができました。

今後も、取組の焦点を絞り、チームごとにアイデアを出し合っただけでなく、実践を進めていきたいと思えます。

(校長 高橋 薫)

主体的に取り組むことができ 生徒の育成

備前市立吉永中学校



1 はじめに
本校は、県東部に位置し、生徒数87名の小規模校です。生徒は落ち着いていますが、主体性や粘り強さに欠けるところや学力やメディアコントロールに課題がありました。

そこで生徒一人一人が自分の将来を描き、それに向けて主体的に学習や生活に取り組むことを目指し、次のような取組を行いました。

2 取組の概要

取組を始めるに当たり、研究主任を柱に、OJTの側面から、各学年の若手教員で編成した研究委員会を立ち上げました。この委員会は、本校が推進しているキャリア教育を基に、生徒がP D C Aサイクルを回すことで主体性の向上を図る取組を提案しました。この提案を基に、全校で取り組んだことを紹介します。

(1) 「立志証」と行動目標

4月当初に「10年後、なりたい自分」をイメージし、実現のために具体的な目標を立てる「立志証」を作成します。その

振り返りを定期的に行いますが、単に成否だけではなく、その理由を明確にすることで次に繋げるようにしています。そしてそのサイクルの中で、教育相談や3者懇談、生活ノート等で教員が対話的にかかわることで、「目標を書いただけ」で終わらせないようにしています。

また行

動目標「自分から『よしなが』」は、生徒会役員が中心となり、学校生活の改善を目的に全校生徒の意見をまとめ、教職員と協議の上、作成されたものです。これを教室や廊下への掲示集会や行事での生徒会役員による活動の意味づけ、振り返りでの帰属、教員の説諭等で取り入れています。



行動目標

(2) 社会との接続の意識づけ

教科でのキャリア教育として、生徒たちに「社会との接続」を意識させるようにしています。「学習の目的」や「学習と社会との繋がり」を生徒が意識することに、主体的に学習する意欲が高まると考え、教員が折に触れて生徒に語ったり、学校通信で保護者に知らせたりすることで、継続した意識づけを図っています。

(3) いじめ防止の取組

生徒会執行部が公約の一つとして、取り組みました。左の写真は、いじめ防止に向けて生徒会が主催して行ったシンポジウムの様子です。また、香川県や東京都で開かれた子どもサミットやOKAYAMAスマホサミットにも参加し、得た情報を基に、本校生徒の課題を見つけ、改善方法について全校で考える機会を何度もつくりました。一人一人が考えることで人権意識の高揚



生徒会主催シンポジウム

(4) 小中連携・地域貢献

小中連携では「スマホ出前授業」や月2回の「あいさつ運動」を行っています。「あいさつ運動」では、良いあいさつをした児童に「グッドあいさつカード」を渡しています。これも生徒会執行部の公約の一つであり、児童の頑張りに一役買っていると考えています。

地域貢献では、ボランティア活動に参加する生徒の割合が飛躍的に伸びました。これは「目的」を意識させたことや、生徒会執行部が中心となって、全校生徒に呼びかけをしたことの結果だと思えます。活動後の振り返りから、自己有用感や積極的に取り組む大切さを感じた生徒が多かったです。

3 おわりに

定期的に行う調査の結果では、目的・目標を意識して行動したり、行事等での達成感を感じたりする生徒の割合や生徒の授業以外での学習時間が増えました。全教職員で取り組んだことや教育相談を基にしたかわりを行ったことが成果につながったと考えます。

今後も生徒一人一人が将来を見据え、主体的に取り組む活動を多く取り入れ、それを全教職員で行っていきたいと思います。

(校長 木村俊一)